豊かに流れる菊池川。その河畔に点在する古代の〝野外アートギャラリー〟、河畔から始まる江戸時代の〝旧豊前街道〟を訪ねてみよう。

旧豊前街道を歩く――山鹿

山鹿・旧豊前街道を目指して車を走らせる。菊池川に架かる山鹿大橋の欄干で舞う「灯籠娘像」が出迎えてくれた。古代人が残したメッセージを訪ね、また、近世のたたずまいを残す街道筋を歩いた。〝湯の町エレジー〟ならぬ、ここは〝よへほ～〟の音色が似合う街である。

▼映画撮影のセットに紛れ込んだ!?

山鹿・旧豊前街道は菊池川河畔の『千代の園酒造』から始まる。昔、宿場町、今、商店街。八千代座までの街道沿いは、昔ながらのたたずまいを残している。白壁土蔵造りの家並み、黒々とした瓦屋根…。映画撮影のセットの中を歩いているようだ。

『豊前街道』さり気なく立っている道標

創業明治二十九年の『千代の園酒造』。杉を束ねて作った〝酒林（さかばやし）〟は三月に新しく変えられたばかり。まだ、緑鮮やかだ。枯れて茶色になるほど酒の熟成度も増していく。五月から十月までは蔵見学、併設の『酒造資料館』では江戸・明治時代に実際に使われた手桶や掘り下駄など酒造り道具の見学や酒の試飲もできる。お昼からちょっと得した感じ。でも、ドライバーはぐっと我慢だ…。

『チブサン古墳』
赤・白・青で三角や菱形の連続模様が描かれている

▼山鹿をもっと知りたいなら…

温泉通りと合流し、旧豊前街道は北へと続く。大正建築の銀行跡を利用した『山鹿灯籠民芸館』は、この界隈では一際目立つ存在だ。江戸時代の〝粋〟と大正時代の〝ロマン〟がうまく街道筋に溶け込んでいる。館内には「よへほ～」の音色が響きわたり、吹き抜けの天井から下がる山鹿灯籠が柔らかい灯りを落としていた。館内で流れる山鹿灯籠と温泉の歴史についてのビデオも見逃せない。

「お気軽に…」の看板に誘われて『山鹿灯籠の店・なかしま』に立ち寄った。灯籠師の中島清氏は〝五重の塔〟の製作中。作品すべてが糊と和紙だけで作られる繊細な芸術品。和紙の持つ優雅さは外国にも人気が高いそうだ。

今や山鹿のシンボル、明治四十三年建築の芝居小屋『八千代座』周辺には赤、黄、青の色鮮やかな幟（のぼり）が風にひらめく。その向かいに、明治二十年建築の土蔵が、八千代座管理資料館『夢小蔵（ゆめこぐら）』として平成四年八月に再生した。

『夢小蔵』
館内には〝夢〟が詰まっている。開9時～16時30分。休水曜（祝日の場合は翌日）・年末年始。料100円。☎0968・44・4004

館内には、八千代座内に残っていた小道具類や当時の広告原画、昭和初期から使用された三十五ミリカーボン式映写機、衣装などを数多く展示中。まさに八千代座の全盛期を今に伝える〝夢の蔵〟だ。

▼古代のロマンに興味アリ

〝古代〟のロマンも訪ねよう。菊池川支流の吉田川と吾野川を越えると、辺りはのどかな風景に変わる。

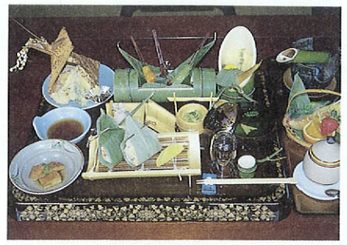
菊池川流域の考古学や民俗資料など三千点を収蔵する『山鹿市立博物館』［開九時～十六時三十分、休月曜（祝日の場合は翌日）・年末年始、入館料百円、☎0968・43・1145］には、土器や銅器、日本で唯一の稲の穂摘み具などが並んでいる。改めて、菊池川流域の豊かな自然と歴史の深さを思い知らされた。また、周辺に点在するチブサン古墳やオブサン古墳、鍋田横穴群などの『肥後古代の森』にも足を伸ばそう。博物館に隣接するサイクリングターミナルで自転車を借り、自然に触れながら〝古代〟を訪ねるのも楽しそうだ。

『千代の園酒造』
江戸時代の面影を残す白壁土蔵造り。〝酒林〟は酒の熟成度の目安。見学9時～15時、休日曜・祝日（月2回程度土曜も休み）。無料。蔵見学は電話予約を。☎0968・43・2161

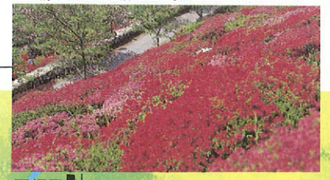
▼温泉・グルメ、そして、春を見つけた

古代と近世に触れ、好奇心をくすぐられる小旅行――。旅の疲れは温泉につかってゆったり、のんびりしたい。毎分一万トリットルの湯量を誇る山鹿の湯は、別名〝乙女の柔肌〟とも称される名湯だ。

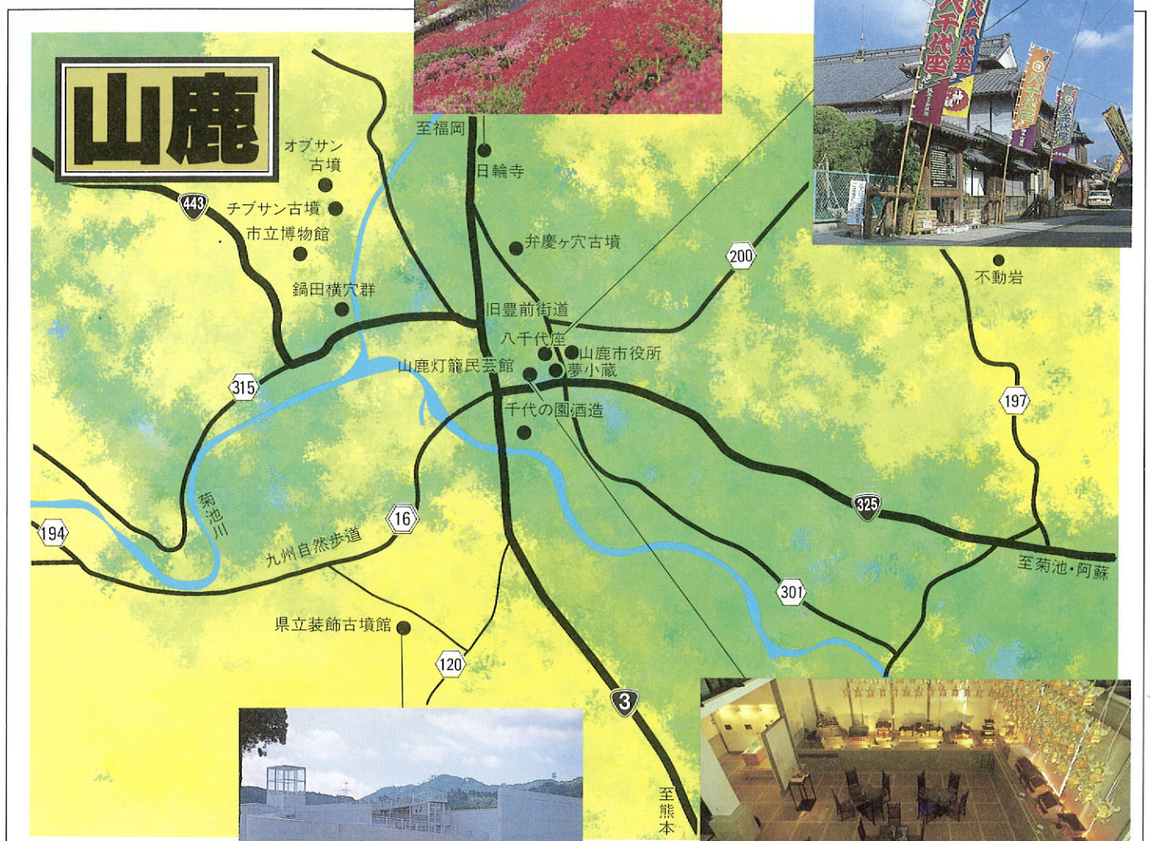
四月上旬まで、市内の四軒の旅館では、鹿北郷の新筍（しんたけのこ）を使った『筍グルメフェア』が行われている。かっぽ酒を片手に筍の天ぷら、刺身など八品に舌つづみ。また、三月下旬から五月にかけては、『日輪寺』の『つつじ公園』に二百本の桜と三万五千本のつつじが咲き誇る。春の楽しみは多い方がいい。


『筍グルメフェア』
食膳いっぱいの春の香りを楽しもう。期間は3月上旬～4月上旬。1泊2食付き1万2000円～（料理のみ5000円～）。問い合わせは山鹿市観光協会☎0968・43・2952

『日輪寺とつつじ公園』
境内には、大石良雄以下17名の赤穂義士遺髪塔などの由緒深い遺跡が多い。楼門の銘鐘は肥後3大銘鐘の一つ。3月下旬から5月中旬ともなると、桜とつつじの花が見事に咲き誇る。日輪寺では精進料理も堪能できる。☎0968・44・6721



『八千代座』
芝居小屋としては、全国で3番目に重要文化財の国の指定を受けた。廻り舞台、奈落、スッポン（せり）など、江戸時代の伝統を受け継いだ本格的な構造だ。明治43年建築。開9時～16時30分。休水曜（祝日の場合は翌日）・年末年始。料大人200円。☎0968・44・4004



『県立装飾古墳館』
鹿本郡鹿央町に前方後円墳の双子塚古墳をモチーフにした『県立装飾古墳館』が開館。装飾古墳を寸分違わずに再現したレプリカを始め、古代文化の資料などが展示されている。開9時30分～17時（入館は～16時30分）。休月曜（祝日の場合は翌日）。料大人400円。☎0968・36・2151

『山鹿灯籠民芸館』
伝統工芸「山鹿灯籠」の展示・保存に加え、山鹿温泉の歴史と文化のすべてがわかる。天井の龍の絵（山鹿出身狩野洞容作）は、山鹿温泉「御前湯」から移されたもの。開8時～21時。休年末年始。料大人200円。☎0968・43・2952